

エコアクション21

環境経営レポート2023

(対象期間2023年9月～2024年8月)

作成日2024年11月15日

1. 企業理念 環境経営方針
2. 事業活動の概要
3. 環境経営目標と実績
4. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
6. 代表者による全体評価と見直し・指示



エコアクション21
認証番号0000090

1. 企業理念 環境経営方針

環境経営方針

理念

テクノブレーンズは、地球環境は人類共通の有限財産と認識し、企業理念達成のあらゆる活動領域で環境の保全に配慮した行動をする

行動指針

序文

「環境保全」と「経済合理性・便益性」とはトレードオフの関係にあることが多い事を直視し、我々の努力と忍耐が環境の悪化を防止できると確信し、行動しなければならない。

具体的アクション

1. 企画、開発、設計、製造、保守等のあらゆる事業領域において環境に配慮した行動をします
2. 環境関連の法律、規則、協定などを遵守し、さらに自主基準を制定して一層の環境保全に取り組みます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に取り組みます。
4. 地球温暖化物質、有害物質などの環境に負荷を与える物質の代替、削減に努めます。
5. 環境に関する地域社会活動に参画し、社会に貢献します。
6. 環境に関するセルフチェックを定期的を実施し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質的な向上に努めているかチェックし継続的改善を行います。
7. 環境教育、社内広報活動などにより、全社員に環境基本方針の理解と徹底を図り、環境に関する意識向上を向上させると共に遵守しない社員には懲戒を含め厳しい態度で臨みます。

2021年9月1日
テクノブレーンズ株式会社
代表取締役社長 池口雅之

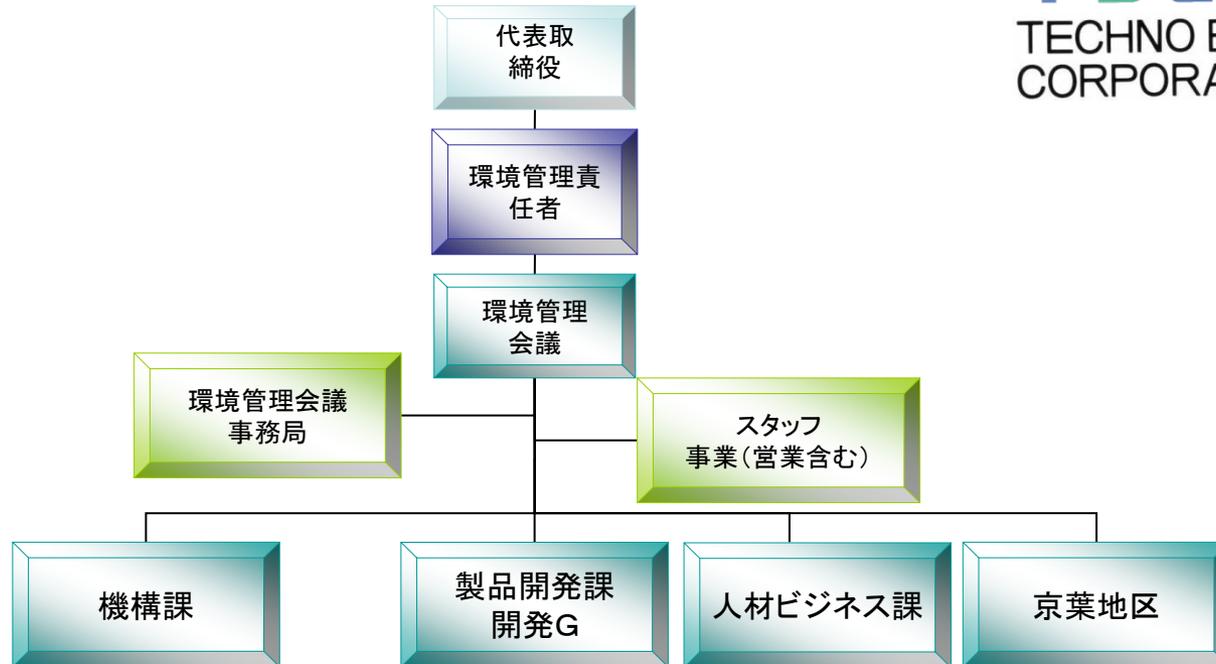
2. 事業活動の概要

- (1) 事業社名
テクノブレーンズ株式会社
代表取締役社長 池口 雅之
- (2) 所在地
東京都稲城市押立1720-1
- (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先
責任者 取締役支配人 池口 徹志
担当者氏名 同上
連絡先 042-377-3511 (代)
FAX 042-378-3404
- (4) 事業内容及び適用範囲
コンピュータ及び情報通信システムの開発・設計・製造・保守
- (5) 認証・登録の対象組織、認証・登録番号
対象範囲：全社、全部門
認証・登録番号 0000090
- (6) 事業規模

指標	単位	(2023年 9月~2024年 8月)	(2022年 9月~2023年 8月)	(2021年 9月~2022年 8月)	(2020年 9月~2021年 8月)	(2019年 9月~2020年 8月)
従業員数	人	52.00	41.00	43.00	45.00	43.00
売上高	万円	46,875	30,476	39,176	43,454	40,309
床面積	m2	1,119.91	1,119.91	1,119.91	1,119.91	1,119.91
生産高	万円					
生産量	t					
運搬量	t					

環境管理体制

(第64期2024年9月1日現在)



環境管理体制

環境管理体制は、経営のサブシステムとして位置づけ、組織体は環境管理会議と称し、社長を議長とし、事業支援本部長を事務局としてその任にあたる。

代表者の役割

課題とチャンスを見直し・指示をする。運用し、維持するための経営資源を用意する

環境管理会議

環境管理会議は月1回開催し、会の構成員は社長以下6等級以上の管理職とする。

環境管理責任者

環境管理責任者は環境管理計画を立案し、環境管理体制、運用手続、教育(含むしつけ)等経営体制を構築し、計画の実施等をもってその任に当たる

従業員

自らの役割を理解する

3. 環境経営目標と実績

a) 定量化目標

		2023年度計画	2023年度実績	2021年度評価	2024年度	2025年度
		2024年8月期			2025年8月期	2026年8月期
温室効果ガス排出量(Kg-CO ₂)(二酸化炭素)		22,800	21,014	○	21,660	50,577
購入電力(kWh)		49,000	46,097	○	46,550	44,223
水資源投入(m ³)		136	141	△	129	123
ガソリン(L)		808	951	△	768	729
一般廃棄物(kg)	可燃ゴミ	300	180	○	285	271
	プラスチック	100	105	△	95	90
	不燃ゴミ	23	15	○	22	21
総排水量(m ³)		136	141	△	129	123

化学物質使用量削減目標については、対象となる化学物質(PRTR制度対象物)は使用していない、及び使用している物質もエチルアルコールを微量使用の為、環境目標での削減目標は設定せず、年2回使用量を把握するに留める事とする。

電力の二酸化炭素排出係数は 0.408kg-CO₂/kWh とした

定量化目標の8項目中4項目○4項目△の評価となり全項目での目標達成とはならなかった。

未達成の主な要因としては、営業活動の推進で顧客訪問回数の増加が要因と思われる。各具体的方策は守られているので、管理手法としてはある程度成果は出ている

○……目標達成
△……達成率80%以上
×……達成率80%未満

b)非定量化目標

化学物質使用量の把握及び削減	生産・販売・提供する製品及びサービスに関して上記にて指定される環境影響物質及びRoHS指令準拠とし、利用の回避又は削減及び全廃並びに管理	○	環境負荷物質 使用製品	負荷物質	出荷月
			放送機器修理	鉛	9、6、7、8月
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮	設計・開発段階に於ける環境負荷低減の実施(顧客要求事項での環境負荷要求が無くとも設計・開発段階で積極的に環境負荷低減を実施出来る事)。数値目標として新規受注件数の3%を目標とする	43件中2件 4.65% ○			
グリーン購入	事務用品・作業用品・作業用機材(PC・測定器等)のグリーン購入100%実施	年間では×			
顧客満足度	部門内会議等で環境活動について啓蒙し実業務に反映させる。顧客アンケートに環境活動に係る項目追加し測定する	○毎月の課内会議で確認			

クリーン購入品詳細

		2023年9月	2023年10月	2023年11月	2023年12月	2024年1月	2024年2月	2024年3月	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月
機構	評価	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	購入品名	-	名刺	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製品	評価	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	購入品名	-	-	布テープ	-	-	コピー用紙	-	-	-	-	-	-
営業	評価	-	×	×	-	×	○	-	-	○	-	-	-
	購入品名	-	名刺○ 会社案内×	会社案内	-	名刺○ 会社案内×	コピー用紙	-	-	名刺	-	-	-

今年度は、推進項目4項目に対して、3項目で目標達成となった
開発段階での環境負荷低減活動の実績が目標3%に対し4.65%と目標達成出来た事は評価できる

c) 過去3年間の環境負荷実績

	2020年度	2021年度	2022年度	
	2021年8月 期	2022年8月 期	2023年8月 期	
温室効果ガス排出量(Kg-CO ₂)	24,064	26,027	21,014	
購入電力(kwh)	50,867	53,652	46,097	
水資源投入(m ³)	154	137	141	
ガソリン(L)	857	881	951	
一般廃棄物(kg)	可燃ごみ	525	330	180
	不燃ごみ	25	20	15
	プラスチック	0	22.5	105

・当社の事業内容はコンピュータ及び情報通信システムの開発・設計・検査・保守であり、環境負荷として、主に総エネルギー投入量、総水源投入量、温室効果ガス排出量、廃棄物等総排出量、総排水量が該当する。
 ・総物質投入量、総製品生産量又は総生産品販売量に関しては、サービスを提供する業務が主たる業務の為、固有の製品生産、販売はあるが対象となる程ではない為、該当無しとした。
 ・化学物質使用量等については、取り扱っていない為、該当無しとした。
 これらの事により環境負荷として数値化して捉えたコア指標項目は上記の通りとなる。

環境負荷グラフ

購入電力 (kWh)

● 2020年度 ● 2021年度 ● 2022年度 ● 2023年度



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2020年度	3,493	2,718	3,476	6,040	6,064	6,126	4,498	3,185	2,558	3,482	4,248	4,979
2021年度	4,189	3,296	3,436	5,606	6,105	6,944	4,255	3,411	2,455	3,546	4,793	5,616
2022年度	4330	3420	3675	5058	6423	6518	3711	3582	2557	2787	4223	4670
2023年度	4282	2397	2708	4187	5177	5228	5105	3134	1675	2476	4569	5158

ガソリン使用量 (l)

● 2020年度 ● 2021年度 ● 2022年度 ● 2023年度



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2020年度	91.24	77.32	66.31	78.21	51.34	63.87	94.76	65.45	39.99	79.49	58.21	90.39
2021年度	63.19	65.82	90.05	66.13	83.54	46.42	51.97	92.1	83.96	65.15	89.75	83.36
2022年度	78.31	32.53	52.98	77.33	44.75	64.85	66.29	146.5	99.82	43.8	106.5	95.31
2023年度	70.1	65.54	84.88	37.39	80.57	95.99	58.58	120.2	58.93	61.57	102.7	114.7

可燃ゴミ (kg)

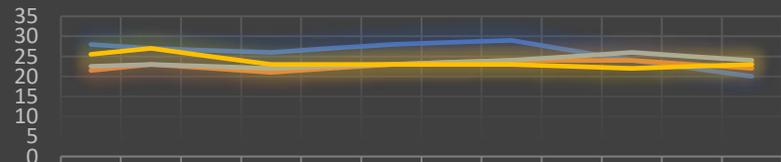
● 2020年度 ● 2021年度 ● 2022年度 ● 2023年度



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2020年度	40	35	25	30	40	35	50	45	50	55	55	65
2021年度	50	55	35	25	25	20	35	20	20	10	20	15
2022年度	15	20	10	20	15	15	25	20	15	25	20	20
2023年度	20	25	20	15	10	15	10	10	10	15	15	15

総排水量 (m³)

● 2020年度 ● 2021年度 ● 2022年度 ● 2023年度



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2020年度	28	27	26.5	26	27	28	28.5	29	26.5	24	22	20
2021年度	21.5	23	22	21	22	23	23.5	24	24	24	23	22
2022年度	22.5	23	22.5	22	22.5	23	23.5	24	25	26	25	24
2023年度	25.5	27	25	23	23	23	23	23	22.5	22	22.5	23

4.環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画の内容

(1) 電力について

環境目標[／]	目標値	評価
使用電力を年間で49,000kWhとする	49,000kwh	
室内温度を夏季28℃、冬季20℃とする		×
長時間使用しないパソコンの電源をオフにする		○
退社時にはパソコン等のプラグを抜く		○
不必要な照明の消灯及び空調機器の停止		○
トイレは原則として消灯し使用時にその都度点灯する		○
荷物に搬出入等以外は移動に階段を使う		○

(2) 総排水量

環境目標[／]	目標値	評価
総排水量を年間で136Lとする	136L	
節水に心がける		○
削減)蛇口を大きくしない(使用時の水量		○
水を流しっぱなしにせず、こまめに蛇口を閉める		○

(3) 廃棄物排出量

環境目標[／]	目標値	
可燃ゴミを年間で300kg、プラスチックゴミを100kg、不燃ゴミを23kg年間とする	可燃300kg プラスチック 100kg 不燃25kg	評価
廃棄物分別表に基づき、廃棄物を分別する		○
紙ゴミは種類別に分別し、紙ゴミのリサイクルを図る		○
事務用品のエコ用品100%とする		×
シュレッダーの使用は機密文書及び個人情報保護の観点から最低限必要なものにみとする。		○

(4) ガソリン使用量

環境目標[／]	目標値			
ガソリン使用電力を年間で850Lとする	808L	サクシード 18.00km/L	ノート 18.00Km/L	ワゴンR 17.00Km/L
各社用車の燃費率以下の目標値とし燃費向上を計る		総使用量(L) 334.09 燃費率(Km/L) 20.13 評価 ○	総使用量(L) 533.65 燃費率(Km/L) 18.93 評価 ○	総使用量(L) 83.44 燃費率(Km/L) 20.27 評価 ○
急発進、急加速等のガソリン使用量増大になる事柄はしない		○	○	○
運行管理表を作成し、走行距離を把握する		○	○	○

(5) 次年度の環境経営計画

a) 定量化目標

		2024年度	2025年度	2026年度
		2025年8月期	2026年8月期	2025年7月期
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂)		21,660	20,600	19,600
購入電力 (kWh)		46,550	44,200	41,990
水資源投入 (m ³)		136	129	123
ガソリン (L)		808	768	729
一般廃棄物 (kg)	可燃ゴミ	200	190	181
	プラスチック	136	129	123
	不燃ゴミ	20	19	18

社用車別目標燃費率		
車種	管理部門	目標燃費率 (Km/L)
サクシート	営業本部	18.00
ノート	営業本部	18.00
ワゴンR	事業支援	17.00

・2024年度は2023年度の各取組みを継続して実施する

b) 非定量化目標

化学物質使用量の把握及び削減	生産・販売・提供する製品及びサービスに関して上記にて指定される環境影響物質及びRoHS指令準拠とし、利用の回避又は削減及び全廃並びに管理
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮	設計・開発段階に於ける環境負荷低減の実施(顧客要求事項での環境負荷要求が無くとも設計・開発段階で積極的に環境負荷低減を実施出来る事)。数値目標として新規受注件数の3%を目標とする
グリーン購入	事務用品・作業用品・作業用機材(PC・測定器等)のグリーン購入100%実施
顧客満足度	部門内会議等で環境活動について啓蒙し実業務に反映させる。顧客アンケートに環境活動に係る項目追加し測定する

5.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

区分	法規制等名称	条項	対象施設等	手続き・対応方法	注記	担当者	実施確認	確認日時
大気汚染	自動車NOX・PM法	法12条	保有自動車	適合した自動車を購入し、定期検査を受ける		3F 木村、奥田 2F 加藤(佐伯) 1F池口(徹)	○ 実績なし	購入時及び点検時
廃棄物等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	法12条	産業廃棄物・事業系一般廃棄物の処理	1.認可を受けた廃棄物運搬業者と契約 2.品目別マニフェスト伝票の発行・確認と保管 3.産業廃棄物管理票(マニフェスト)の交付等の状況報告書を作成し、監督省庁に提出		池口(徹)	○ 実績なし	廃棄物処理時に確認
	稲城市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	条例31条3項	一般ゴミ	1.分別 2.有料指定袋使用		分別に関しては社員全員	○	随時
	容器包装リサイクル法	法10条	資源ごみ	稲城市条例に則り分別廃棄		分別に関しては社員全員	○	随時
	家電リサイクル法	法6条	テレビ、エアコン、冷蔵庫	消費者として使用済み機械器具の小売業者への引渡し		池口(徹)	○ 実績なし	廃棄時
	自動車リサイクル法	法8条	社用車	所有者として使用済み機械器具の小売業者への引渡し		3F 木村、奥田 2F 加藤(佐伯) 1F池口(徹)	○ 実績なし	破棄時
化学物質	消防法	法8条	社屋等	火災の防止	防火管理者による防災訓練	3F 木村、奥田 2F 加藤(佐伯) 1F池口(徹)	○ 11/24訓練実施	定期的な訓練
地球環境保全・省エネ等	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	法第16条、第43条	業務用エアコン等	第16条については「簡易点検」、第43条については「廃棄時の回収依頼書の発行と委託確認書の発行」 点検等の記録の保存等・点検の記録は、機器を廃棄するためのフロン類の引渡し完了の日から3年間保存すること。機器整備の際に、整備業者等の求めに応じて当該記録を開示すること。	フロン回収費用負担、廃棄時に回収依頼書又は委託確認書の発行等法規遵守	池口(徹)	○	四半期に1回
製品	環境負荷物質の利用回避又は削減及び全廃並びに管理	N社基準	製品全般	N社グリーン調達基準に従う	顧客要求の場合のみ環境負荷物質を特別に使用	設計・開発・製造部門	○	随時
	RoHS指令(欧州の製品部材に含有する有害物質規制)の徹底及び管理	N社及びD社基準	製品全般	N社及びD社のグリーン調達基準に従う	顧客要求の場合のみ環境負荷物質を特別に使用	設計・開発・製造部門	○	随時
	製造工程で利用される環境影響物質(PRTR制度対象物)及び製品に含有する環境影響物質(PRTR制度対象物)の利用の回避又は削減及び全廃並びに管理	PRTR制度対象物	製品全般	製品及び製造工程に於けるPRTR制度対象物を確認	顧客要求の場合のみ環境負荷物質を特別に使用	設計・開発・製造部門	○	随時

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

6. 代表者による全体評価と見直し・指示 (2023年9月～2024年8月)

毎月の環境管理会議にてその都度問題の是正はしているが年間を通して標記すると
定量化目標については

定量化目標の8項目中4項目○4項目△の評価となり全項目での目標達成とはならなかった。

ガソリン購入量が目標に対して上回る結果となったが管理項目の急発進、急加速の低減等の管理手法は徹底されているので問題なしと解釈できる為その項目については静観とする。他の項目は適切に実行されているので全体としても静観とする。

非定量化目標については4項目中3項目○1項目Xとなった。設計・開発段階での環境負荷低減活動については設計部門の意識向上により目標値を上回った。来期以降も目標達成出来る様各担当者の意識向上を会議等で促し推進・監視する。

代表者(経営層)による見直し・指示の内容	
見直し変更の必要性への言及	社長による指示内容
1)環境方針 (必要) (不要)	環境方針そのものの変更は無い。方針を遵守し、各環境目標、環境管理活動と推進の事
2)環境目標及び計画 (必要) (不要)	今回の結果を踏まえて環境目標の再設定が必要
3)社会・取引先・法律等への対応 (必要) (不要)	現状を維持しつつRoHS指令準拠の徹底と新規顧客、新規購買先会社取引の際は環境問題に留意すること
4)実施体制の変更等 (必要) (不要)	実施体制には問題がないので現状維持とする
5)システムのその他の要素 (必要) (不要)	部門会議等で各種手順や教育の徹底をはかりマネージメントシステムとしての運用を向上させる